

## 第 41 回比較文明学会大会

### 大会テーマ：混迷する世界と文明の未来～長崎で考える共生～

200 年にわたる日本近世の鎖国時代、世界中の文明情報はあたかも凸レンズが光を一カ所に集めるように、長崎に焦点を結んだ。その一方で日本文明も長崎に集約し、世界に発信された。その意味で、長崎は日本と世界を繋ぐ文明の発受信の基地として機能してきたと言えるだろう。

しかし、長崎は、単なる情報交換の中継地であったというばかりではなく、世界の諸文明が交わり、融和し、平和的に共生した文明共生システムが形成され、機能していた場所でもあった。つまり、オランダを中心とする西ヨーロッパ文明のみならず、東、南、西、東南アジア各地の政治・経済・文化等の文明の諸要素が、日本文明との調和を前提に、平和裡に共生した知的伝統があった。それは、近年復元整備された「出島」を訪れば多くの痕跡を見ることができる。

第 41 回比較文明学会大会においては、近世日本を代表する国際交易都市にして、諸文明の融合と共生を成し遂げてきた長崎の地においてその「文明的財産」を検証しつつ、この世界が直面する諸問題に向き合い、「共生」について考える機会としたい。

比較文明学は、人類の営為を余すところなく研究対象とし、分析と総合、あるいはミクロとマクロの両視点を有機的に結び付けつつ、学際的に検討する学問である。また、単に過去の事実の検討を目指すのではなく、未来志向の学として、過去から現在までの歴史を実証的に研究することを目指している。その意味でも長崎において学会大会を開催することには大いに意義があると考えている。

本大会では、初日(11月10日)には、長崎の歴史的発展や意義についての対談、二日目には、『長崎で文明の共生を考える～「交流」と「融合」の歴史と意義』をテーマにしたシンポジウム、三日目は会員の研究発表に加え、長崎に関する研究者の発表セッションをそれぞれ開催する。また、本大会には国際比較文明学会の会長、副会長もオブザーバーとして参加される予定である。共催者として中央大学政策文化総合研究所を迎え、長崎市の後援を得て、長崎歴史文化博物館などと協力して、長崎の市民研究グループや市民の方々の広範な参加を実現したい。

保坂俊司

第 41 回比較文明学会大会実行委員会実行委員長

## □第 41 回大会概要

日程:2023 年 11 月 10 日(金)～ 12 日(日)

場所:長崎歴史文化博物館 (〒850-0007 長崎市立山 1 丁目 1 番 1 号)

出島メッセ長崎 (〒850-0058 長崎県長崎市尾上町 4 番 1 号)

### 【大会 1 日目 2023 年 11 月 10 日 (金) :長崎歴史文化博物館ホール】

16:30～ 受付開始

17:00～19:00 鼎談:「長崎に学ぶ 共生の歴史」

発表者:赤瀬浩(活水女子大学教授)

発表者:島田竜登(東京大学准教授)

司会:保坂俊司(中央大学教授)

### 【大会 2 日目 2023 年 11 月 11 日 (土) :出島メッセ長崎】

10:30～12:30 役員会【主催者会議室】

13:00～ 受付開始(一般会員:3,000円、学生会員:500円、一般無料  
[一般の方で資料の希望がある場合は500円で頒布します])

13:30～17:00 シンポジウム:「長崎で文明の共生を考える:「交流」と「融合」の歴史と意義」【会議室 108】

発表者:保坂俊司(中央大学教授):

「長崎における文明の共存共栄の知恵の現代的意義・・・小さな長崎の大きな知的遺産」

発表者:山口美由紀(長崎市出島復元整備室専門官 学芸員)

「出島 交流と融合の DNA」

発表者:山下範久(立命館大学教授)

「近世のグローバリティと日本型「交易港」としての長崎」

司会:吉野浩司(鎮西学院大学教授)

17:15～18:15 総会【会議室 108】

18:15～20:15 懇親会(会費:一般会員 6000円、学生会員 3000円)

【大会3日目 2023年11月12日（日）：出島メッセ長崎】

- 9:00～ 受付開始
- 9:30～11:30 公開講座：「長崎学：共生の街で考える」【会議室108】  
発表者：齋藤義朗（長崎県文化振興・世界遺産課係長 学芸員）  
「長崎の洋式ホテルにおけるアメリカ人歯科医の巡回診療—先進歯科診療所が置かれた長崎居留地のホテル—」
- 発表者：田中学（長崎市長崎学研究所主事 学芸員）  
「近世港湾都市長崎の形成に関する考古学的研究」
- 発表者：島由季（大浦天主堂キリシタン博物館 学芸員）  
「潜伏キリシタンのイナツシヨ(イグナティウス・デ・ロヨラ)崇敬」
- 発表者：長岡枝理（長崎歴史文化博物館 研究員）  
「《聖福八景図詩巻》に見る17世紀末の日中文化交流—忘れられたはざまの世代について」
- 司会：中牧弘允（国立民族学博物館名誉教授/吹田市立博物館特別館長）
- 11:30～12:15 国際比較文明学会（ISCSC）会長・副会長発表および挨拶・英語セッション
- 12:15～13:30 昼食
- 13:30～16:30 個人研究発表

大会要旨集は後日、会員メーリングリストおよび学会ホームページでお知らせします。  
連絡先：第41回比較文明学会大会実行委員会（Eメール：[jscsc41st@gmail.com](mailto:jscsc41st@gmail.com)）

会員による個人研究発表 —— 11月12日(日)

部会1 座長：加藤久典		会議室108 11:35~12:20
Lynn Rhodes	11:30-11:35	Introduction of the International Society for the Comparative Study of Civilizations.
Michael Andregg	11:35-11:55	The World has not Learned the Most Important Lesson of Nagasaki: Review of the Current Status of Nuclear Weapons and Arms Control.
Shunichi Miyajima	11:55-12:15	Comparative Religion and Comparative Civilization: Can Help Build a Peaceful Civilization?

部会2 座長：吉田晃章		会議室108 13:30~15:30
岩松文代	13:30-14:00	西洋がとらえた東洋の植物と文明 -訪日外国人による竹の発見と伝達-
赤坂信	14:00-14:30	世界遺産に隣接して計画されている洋上風力発電施設(西海市江島周辺)が示す問題の所在
篠原典夫	14:30-15:00	「施餓鬼」にみる近世東アジアの信仰
三浦伸夫	15:00-15:30	ニュートンの比較文明論

部会3 座長：大森一三		会議室105 13:30~16:00
深堀彩香	13:30-14:00	歌オラショ《ぐるりよざ》の欠落部に関する一考察
安達未菜	14:00-14:30	国家間のエスニシティとアイデンティティの一考察
佐野仁美	14:30-15:00	人智の大移転—情報文明と翻訳—
小林雅博	15:00-15:30	人新世における「希望」の概念について
小川晃夫	15:30-16:00	G・ホフステッドの比較文化研究に基づいたE・トッドの人類学的システムの再検討

部会 4 座長：吉野浩司		会議室 109 13:30～16:30
吉野浩司	13:30-14:00	「〈善く生きる〉ための社会学とは」
サヤナ・ミロポヴァ	14:00-14:30	「ロシア人たちの社会学・革命・亡命」
中辻柚珠	14:30-15:00	「チェコスロヴァキアにおける亡命ロシア知識人のネットワーク」
阿毛香絵	15:00-15:30	「G. ギュルヴィッチと G. バランディエとフランス社会学」
吉田耕平	15:30-16:00	「未来は共同で描かねばならない——ニコライ・ティマシェフ、亡命の半世紀、そして回帰する社会動態論」
梅村麦生	16:00-16:30	「亡命知識人における知識と知識人の意義——テオドール・ガイガーの場合」

部会 5 座長：金子晋右		会議室 110 13:30～16:30
林正博	13:30-14:00	極東親子文明の存在と日本
川口文夫	14:00-14:30	「人類共生の文明社会を求めて」
犬塚潤一郎	14:30-15:00	ルネッサンス都市から現代 AI まで:公共性の存在論的探求
鎌田出	15:00-15:30	吉田松陰諸国遊歴の第一歩～長崎で見たものは何か～
三枝守隆	15:30-16:00	250年間の徳川の平和 (Pax Tokugawica) を実現させた鎖国政策——共同研究：『歴史の研究』における「日本に関する悉皆調査」の中間報告
筒井正二郎	16:00-16:30	江戸時代の医薬 -長崎に学んだ藩医と、売薬商人の活動について-